

京都府オリジナル米「京式部」の安定的な品質確保に向けた栽培方法の確立

農林センター

問い合わせ先: 農林センター栽培技術開発部 0771-22-6492
丹後農業研究所 0772-65-2401

主な成果

- 移植時期: **5月下旬(20日~31日)**、栽植密度: **18.5株/m²(株間18cm)~15.9株/m²(株間21cm)**、収穫適期: **黄化粉率80%前後**が最も品質向上につながる栽培方法となりました。
- 施肥体系では、窒素あたり**基肥-中間追肥-穂肥Ⅰ-穂肥Ⅱ = 3-2-2.5-1.5 (kg/10a)**が品質が良く、**穂肥Ⅰは幼穂長10mm程度(出穂18日前頃)**までに行うと整粒率が高くなることが分かりました。

成果の内容

最適な栽培方法

5月下旬に植えると、収量・品質が良い

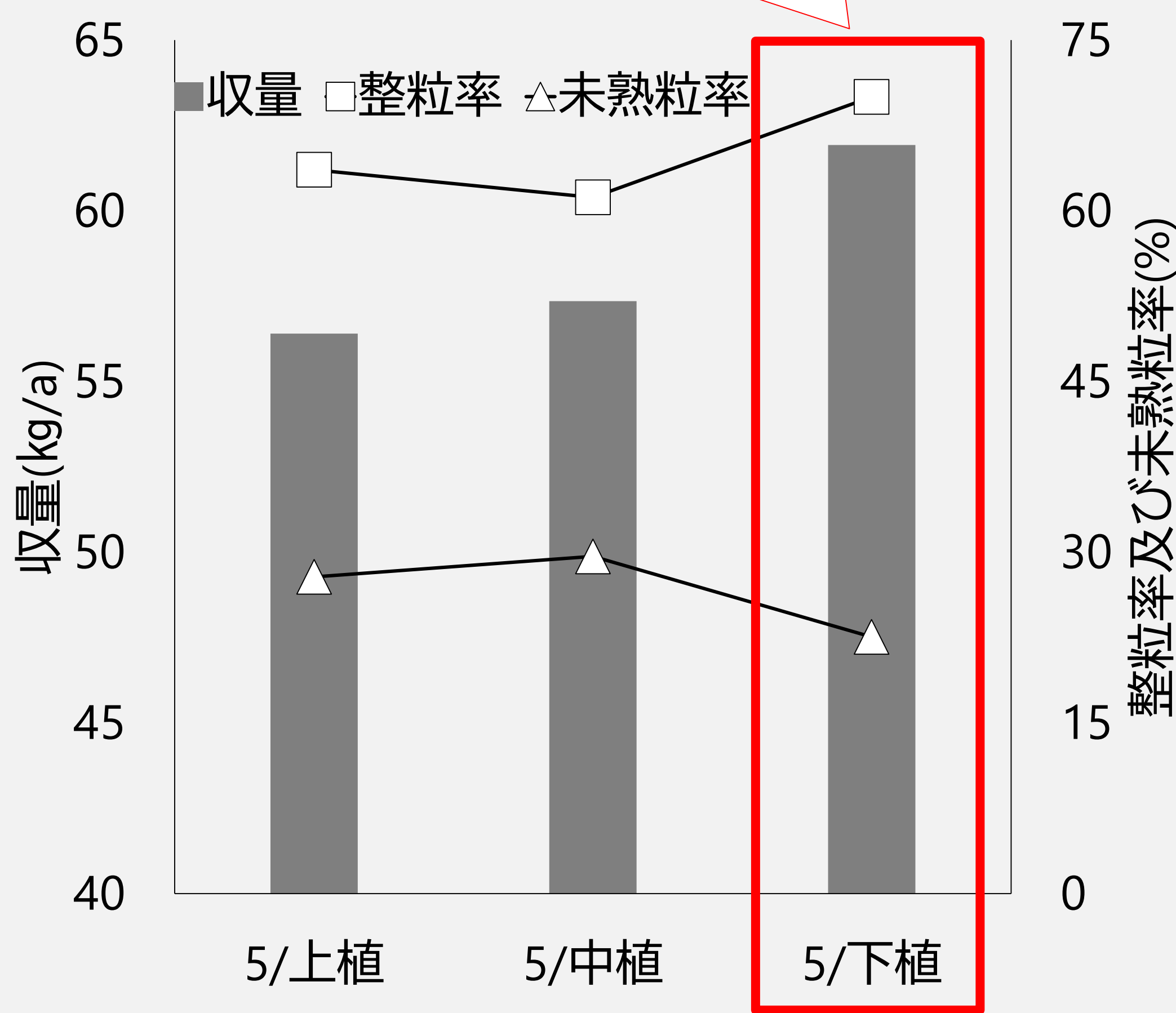


図1 移植時期の違いが収量・品質に及ぼす影響
※栽培技術開発部(亀岡市)・丹後農研(京丹後市)の2020-2022データを平均

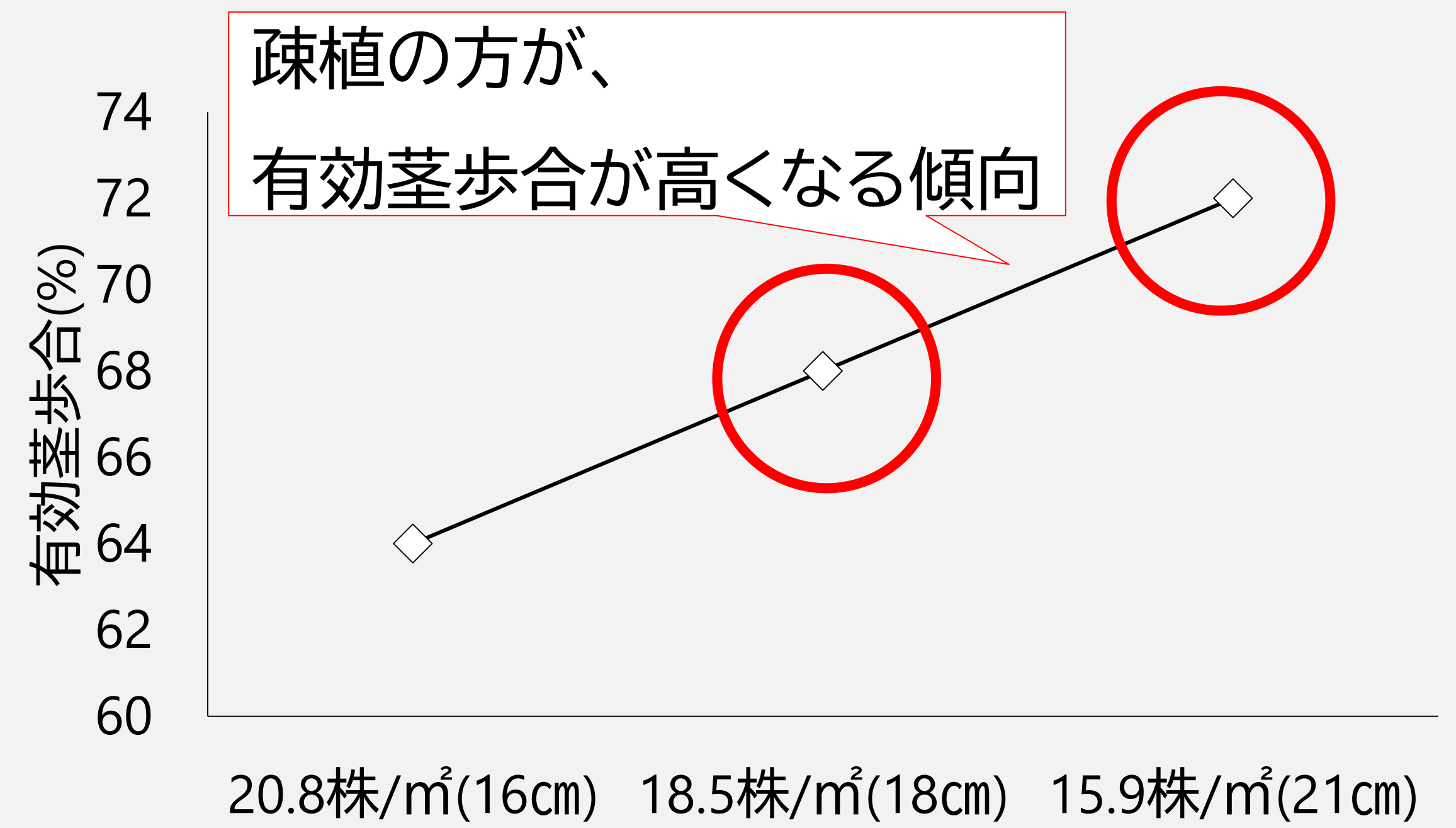


図2 栽植密度(株間)の違いが整粒率に及ぼす影響
※栽培技術開発部(亀岡市)・丹後農研(京丹後市)の2020-2022データの平均

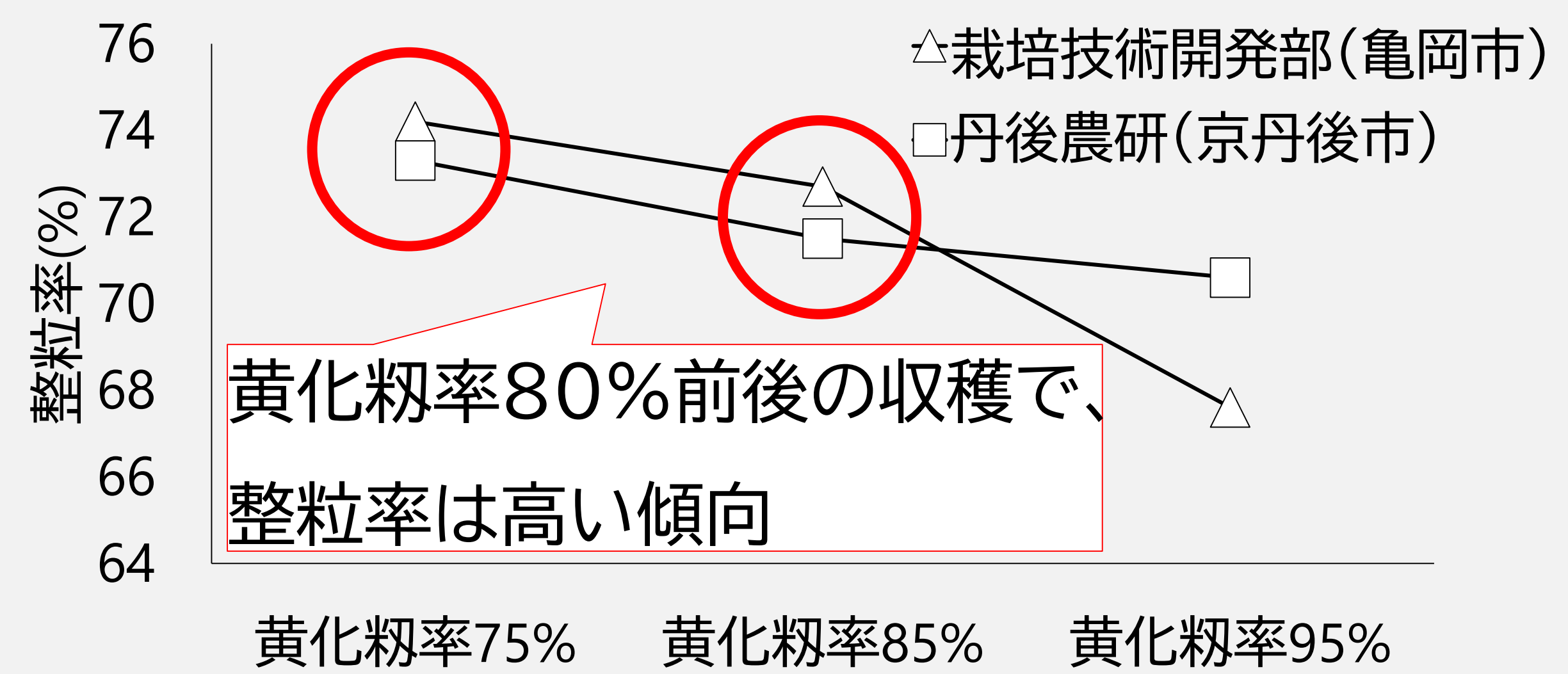


図3 収穫時期の違いが整粒率に及ぼす影響 ※2020-2021データの平均

施肥体系

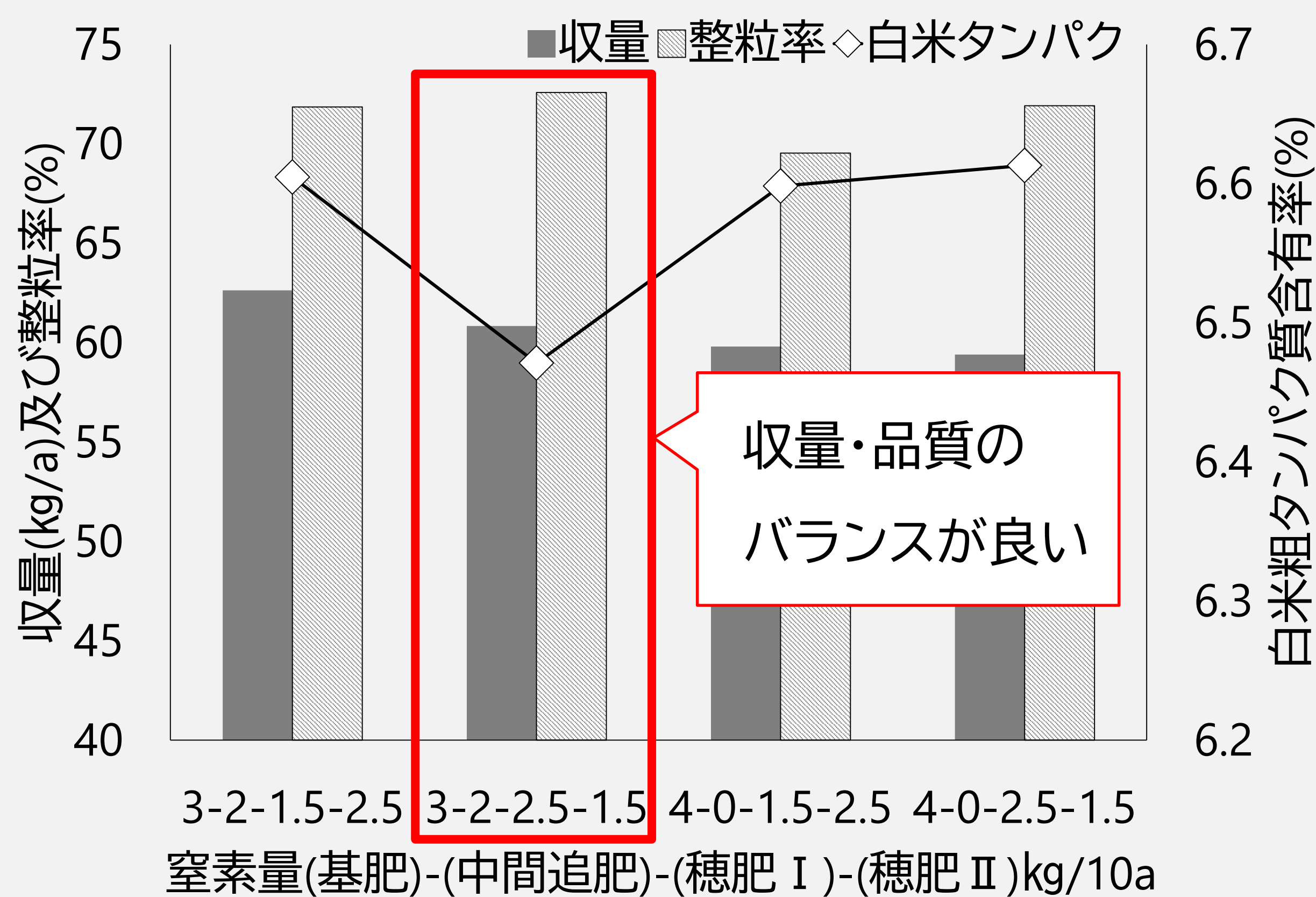


図4 施肥パターンの違いが収量・品質に及ぼす影響
※栽培技術開発部(亀岡市)・丹後農研(京丹後市)の2020年データの平均

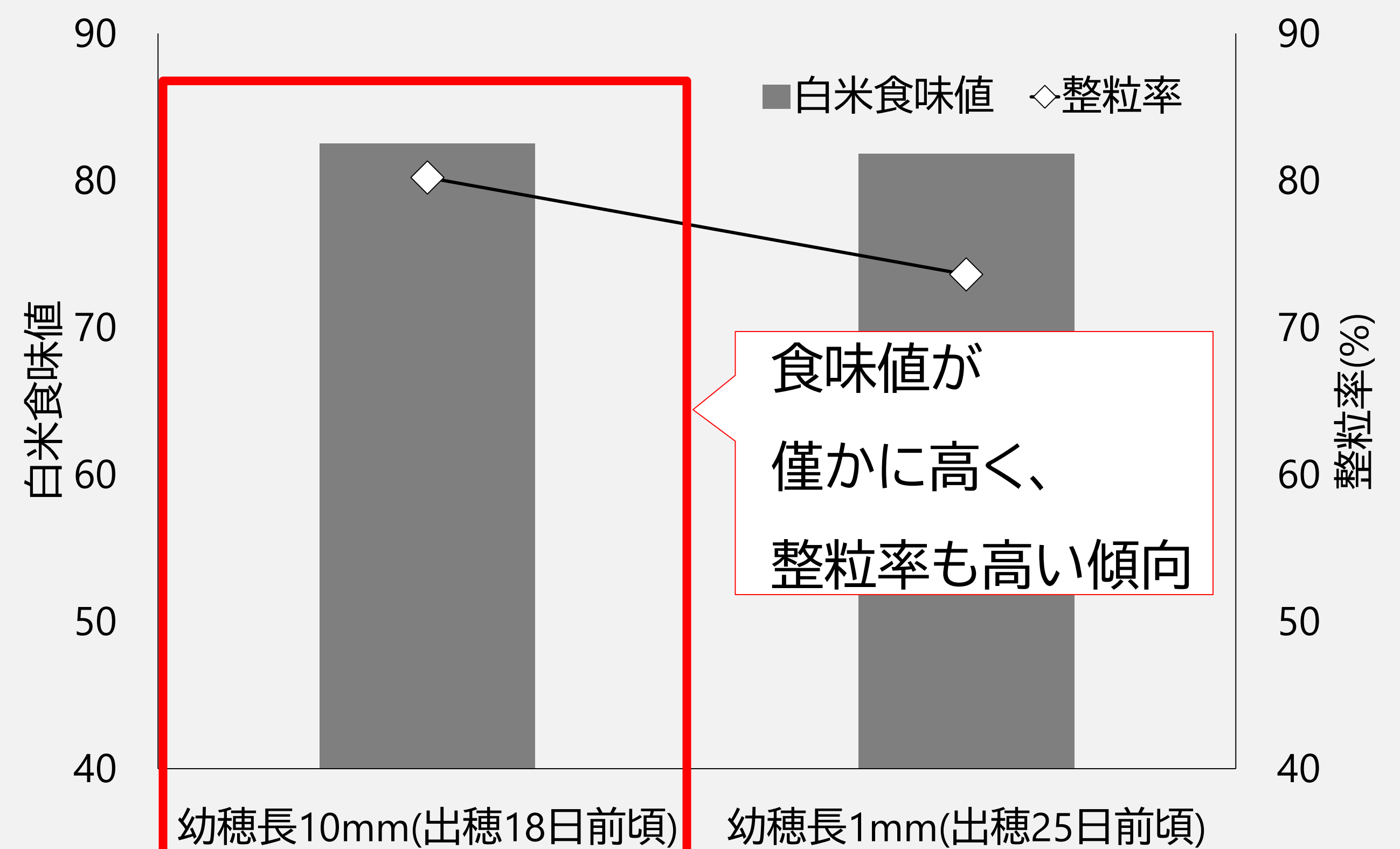


図5 穂肥Ⅰの施用時期の違いが品質に及ぼす影響
※栽培技術開発部(亀岡市)・丹後農研(京丹後市)の2021年データを平均
栽培技術開発部: 5/10植、丹後農研: 5/20植

期待される波及効果

- 実需者、消費者のニーズに応える「京式部」の高品質・安定供給の実現
- 高品質な「京式部」が広がることによる、京都府産米全体のイメージ及び知名度向上